

弘前大学保健管理概要

第42号



2021年

弘前大学保健管理センター

目 次

巻頭言：弘前大学保健管理センター所長	佐藤 研	2	
I 報 告			
コロナ禍が大学生の心に及ぼす影響 — 学生相談の視点から — Effects of COVID-19 on Mental Health among University Student — From the View Point of Student Counseling —			
	弘前大学保健管理センター 田名場 美 雪	3	
II 令和2年度保健管理業務報告			
1. 保健管理センター年間行事		11	
2. 保健管理センター業務対象学生及び職員数		13	
3. 学生の健康診断		14	
4. 職員の健康診断		23	
5. 教育学部附属学校定期健康診断受検状況		29	
6. 保健管理センター月別利用状況		30	
III 令和2年度カウンセリング報告			32
IV 保健管理センター概況			34
編集後記			35

巻 頭 言

弘前大学保健管理概要42号をお届けします。

2021年4月に弘前大学保健管理センター所長に就任いたしました。今年度は、新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナ）対策の1年であったと言っても過言ではありません。学内における新型コロナ感染報告への対応、感染対策、次々に発生する変異株や感染状況の変化に合わせて、学生、職員健診の実施方法の調整や実施期間の変更など、様々な対応が必要でした。2021年11月以降は新規感染者数も減少しておりましたが、オミクロン株の流行による第6波によって、現在、感染者数は過去最大となっています。変異株が流行するごとに、変異株の症状や感染力の強さ、重症化リスクなどについて研究されていますが、オミクロン株はその感染力の強さ、発症までの期間が短いといった特徴があり、また、年代によるワクチン接種率の影響も考慮されますが、従来株と比較して、幼児、小児への感染例が多く報告されています。本学には、附属幼稚園、小中学校、特別支援学校があり、幼児、小児への更なる感染対策が急務となりました。また、全国的な問題として、学級閉鎖や休校、家族の濃厚接触などにより、保護者も仕事を休む必要が生じ、社会活動への影響も指摘されています。そのため、社会活動の維持に必要ないわゆる「エッセンシャルワーカー」では、濃厚接触者の待機期間等の見直しも行われており、リアルタイムで変更点を把握して対応することが必要となっています。

現在、本学では、新型コロナワクチンの3回目の職域接種に向けて準備を進めています。本学、教職員、学生の希望者を対象とした1回目の職域接種は、2021年6月27日から実施となり、最終的には、全体で約5,920名の方（先行接種の医学部学生を含めると、全学生の8割に実施）に2回接種を実施しました。さらに、市内の連携大学の教職員、学生の接種希望者1,560名への接種も実施しております。実施当初は、ワクチンに対する情報も現在より少なく、接種会場の準備や運営、ワクチン管理、接種後の体調不良やその後の副反応による影響など、様々な不安がありました。附属病院および事務職員の皆様、連携校の皆様にご尽力いただき、実施することができました。連携大学を含めて多くの教職員、学生の皆さんにワクチン接種ができたことは、大学における感染対策として、一定期間、かなり有効であったと考えます。3回目の追加接種の有効性も報告されており、有効な感染対策として期待しています。

また、新型コロナ拡大、行動制限などが遷延することによるメンタルヘルスへの影響が懸念されており、昨年9月の厚生労働省によるインターネット調査では、半数程度の方が何らかの不安を感じており、感染予防のための行動制限、生活様式の変化がメンタルヘルスに大きな影響を及ぼしていること、また、運動量の減少、ゲーム時間の増加など、フィジカルヘルスへの影響も指摘されております。当センターでも、新型コロナ感染拡大前と比較して、カウンセリング件数が右肩上がりに増加傾向であり、行動様式の変化、コミュニケーションの変化、感染への不安などを背景とした、様々な心理社会的問題に起因するメンタル不調に対して、今後とも、様々な部署や医療機関とも連携の上、積極的に対応していきたいと考えております。

早期の新型コロナ感染収束を祈念するとともに、保健管理センターとして、今後とも、学生、教職員の皆さんのフィジカルヘルス、メンタルヘルスの維持、向上をサポートしていきたいと考えております。

令和4年1月

弘前大学保健管理センター所長

佐藤 研

I 報 告

コロナ禍が大学生の心に及ぼす影響 — 学生相談の視点から —

Effects of COVID-19 on Mental Health among University Student

— From the View Point of Student Counseling —

田名場美雪

(弘前大学保健管理センター)

要旨：大学生がコロナ禍からどのような影響を受け続けてきたのか、講義の受講者への Web 調査（報告 1）と来談者の相談内容（報告 2）から検討する。受講者には、行動制限・自粛が心身に与えているプラスの影響・マイナスの影響の有無について尋ねた。影響「あり」の場合には、その具体的内容を尋ねた。影響がプラスのみの対象者は一割未満であった。プラスの影響としては「見つめ直すチャンス」「自由」「趣味謳歌」などがあげられ、マイナスの影響には「不安定・不安」「人間関係の困難さ」「体調不良」などがあげられた。プラスとマイナスの影響は表裏一体の関係にあると言える。来談者が受けた影響は、「脆弱性」「生活リズム不調」「方向性不透明」などであった。来談者の受けている影響は受講生が受けている影響の色濃く映し出しているものといえる。

キーワード：コロナ禍，大学生，精神的健康，学生相談

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を意識しながら生活し始めて、数年が経過した。2019年に中国で初めて検出され、急速に世界に広がり始めた頃、筆者は遠い国の話として聞いていた。そして、2020年1月、横浜港を出港したクルーズ船の乗客と船員に感染者が確認されてもなお、自分自身にも関係のある事態としてとらえることは難しかった。しかし、あっという間に日本全国に拡大し、2020年4月には最初の緊急事態宣言が出された。

身体的な病気が私たちのメンタルヘルスに悪影響を及ぼすことは明確である。そもそも大学生はメンタルヘルスの問題を抱えやすい時期である。この時期に、曖昧な恐怖、行動制限、そして先行きの見えなさは大学生活に大きなダメージを与えるだろう。治療法が確立されていないことも不安を与える。ワクチン接種が普及し始めたとは言え、コロナウィルスの型は変遷し、流行は既に第六波を数え、収束の見通しはたっていない。

大学生にとっての行動制限の代表的なものは、授業を受けることへの制限であろう。たとえば、弘前大学では COVID-19 の拡大防止のために、2020年度教養教育は開講時期を遅らせてメディア授業でのスタートなり、その後も対面授業とメディア授業が繰り返された。2021年度にも教養教育ではメディア授業が実施されている。表 1 にメディア授業の期間を示した。

各学部の専門科目授業や実習・実験はこれに準ずる形で行われた。対面授業が再開となっても、受講者数の多い講義は教室確保がならず、メディア授業が継続されている。ゼミや個別の研究指導も、対面を避けオンラインで行われるようになった。相談に訪れた学生が「一度も対面での研究指導がありませんでした。毎

表 1 メディア授業期間

2020年度
2020年5月11日（月）から8月6日（木）
2020年10月20日（火）から11月8日（日）
2022年1月6日（水）から1月14日（木）
2021年度
2021年5月17日（月）から5月30日（日）
2022年1月4日（火）から3月31日（木）

週のゼミもオンラインで行われ、みんなとも会えていないです」と、淋しそうに語っていた。影響を受けたのは講義だけではない、課外活動も影響を受けた。

文部科学省が2021年春に行った学生生活に関する Web 調査（文部科学省，2021）¹⁾の中に、学生生活に関する悩みを尋ねた質問項目がある。悩みの内容を多い順に紹介すると、「将来のキャリア（73.3%）」「経済的な状況（40.7%）」「授業等（37.9%）」「学内の友人関係（29.1%）」であった。就職活動や留学などの中止や延期によって、イメージしていた将来像が曖昧になってしまうことへの不安が、学生生活を根底から支えている授業料や生活費など経済的な問題や、学生生活の中心である学業への不安を大きく上回っている。

全国大学生生活協同組合連合会も Web 調査を2021年夏に行っている（全国大学生生活協同組合連合会，2021）²⁾が、そこにはより切実な思いが反映されている。たとえば、不安に思っていることとして、「将来への不安（66.7%）」「無気力（45.3%）」「落ち込み（41.6%）」「孤独（33.0%）」「友人関係変化（26.1%）」「感染するのでは（22.3%）」「生きているのが嫌（19.5%）」「居場所がない（18.7%）」があげられており、大学生が精神的に辛い状況にあることがわかる。

今、あらためて、大学生がコロナ禍からどのような影響を受け続けてきたのか、2つの報告から探索的に検討する。報告1では、筆者が担当した講義の受講者が受けた影響を Web 調査の結果から検討し、報告2では来談者が受けた影響を相談記録から検討する。

【報告1】

2020年度前期は、COVID-19 感染拡大防止の影響を受け、開講時期を遅らせながらのメディア授業での開講となった。この時期、行動制限や自粛が、学生の心身にどのような影響を与えていたのか検討する。なお、この報告1は、第58回全国大学保健管理研究集会での発表をベースにしたものである。

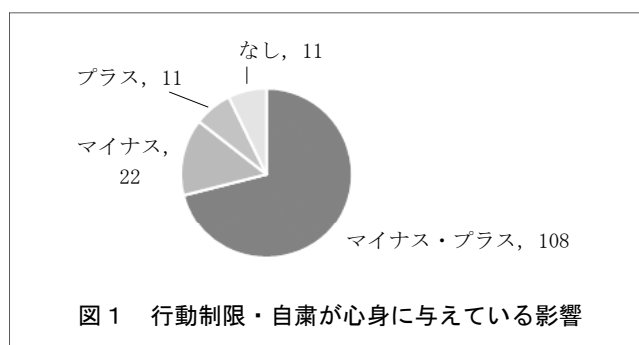
(1) 方法

- 1) 調査実施時期： 2020年6月上旬（メディア授業期間内）。授業形態はオンライン形式であり、講義時間内に実施した。
- 2) 対象者： 教養教育講義の受講者168名であり、有効回答数は152名であった。なお、この講義は、保健管理センターの教員3名がオムニバス形式で担当し、メンタルヘルスに関連したテーマを扱っている。
- 3) 手続き： 記名式の調査を Web 上で実施した。
- 4) 質問内容： 感染防止のための行動制限・自粛が心身に与えているプラスの影響・マイナスの影響の有無について尋ねた。影響「あり」の場合には、その具体的内容を自由記述にて求めた。なお、調査協力依頼に際して、次の3点を告げた。①研究に使用すること、②成績評価とは無関係であること、③次回の講義時に、結果の概略を個人が特定されない形でフィードバックすること。

(2) 結果

1) 感染防止のための行動制限・自粛が心身に与えている影響の有無

「プラスとマイナスの影響あり」が108名、「プラスの影響のみあり」が11名、「マイナスの影響のみあり」が22名、「影響なし」が11名であった（図1参照）。具体的な内容を以下に示す。



2) プラスの影響

	1年生	2年生以上	全体
見つめ直すチャンス	19	16	35
自由	23	15	28
趣味謳歌	19	6	25
勉強しやすさ	8	8	16
体調良好	2	12	14
人間関係からの解放	6	4	10
新生活準備	9	0	9
経済的	3	4	7
	91	63	154

プラスの影響を受けた対象者数は119名、記述された内容は154個であった。一人で複数個記述する場合もあり、対象者数とは一致しない。154個は「見つめ直すチャンス」「自由」「趣味謳歌」「勉強しやすさ」「体調良好」「人間関係からの解放」「経済的」の8種類に大別することができた（表2参照）。対象者の自由記述を一部引用しながら解説していく。

- ①見つめ直すチャンス： 外出機会の減少や通学時間不要により、自分自身について考える機会が増えている。「自分自身についてじっくり考えることができた」「将来についてじっくり考えることができた」という記述が代表例である。また、自宅生にとっては家族と過ごす時間が増えたことで家族関係を見直す機会も増えた。さらには、人と交流できるありがたみに気づかされている。
- ②自由： 自室で過ごす時間が増えたことでリラックスや充実感を得ている。「時間を有効に使うことができる」「通学時間が減ったことで自分の時間が増えた」がその好例である。
- ③趣味謳歌： その増えた自由な時間をさらに活用している学生もいる。「家でできる新しい趣味が増えた」「睡眠に費やす時間が増えた」「意外な趣味を発見」を例としてあげることができる。
- ④勉強しやすさ： 通学の必要がないので、「好きな時間に受講できる」「勉強時間をたくさん確保できる」。「計画的に勉強できる」「何回でも視聴できるので助かる」などは、メディア授業ならではの点であろう。
- ⑤体調良好： 自室での時間が増えたことにより、「自炊をする機会が増えて体調が整った」「睡眠をたっぷりとれる」「通学時間が減り疲れない」といった効果が得られている。
- ⑥人間関係からの解放： 「人間関係から解放され安心」に代表されるように、直接的なコミュニケーションがなくなったことで安堵する学生もいる。
- ⑦新生活準備： 「新生活にゆっくり慣れることができた」「環境の変化が大きかったので対面授業よりも負担が少なくて慣れることができた」に代表されるように、1年生に特徴的な影響である。
- ⑧経済的： 「外出しないので出費が減った」「外食しなくなったので経済的」といった影響もある。

3) マイナスの影響

マイナスの影響を受けていると回答した対象者数は130名、記述された内容は251個であった。一人で複数個記述する場合もあり、対象者数とは一致しない。251個の内容は、「不安定・不安」「人間関係の困難さ」「体調不良」「閉塞感」「運動不足」「生活リズム不調」「経済的不安」の7つに大別できた（表3参照）。対象者の自由記述を一部引用しながら解説していく。

	1年生	2年生以上	全体
不安定・不安	56	39	95
人間関係の困難さ	42	16	58
体調不良	26	8	34
閉塞感	17	12	29
運動不足	8	12	20
生活リズム不調	8	5	13
経済的困窮	1	1	2
	158	93	251

- ①不安定・不安： 「さみしさがすごい」「一人でいることの寂しさやむなしさ」「全体的に気分が沈んでいる」「自分自身について考える時間がありすぎて辛い」に代表されるような不安・抑鬱的な気分。「SNSなどで外で活動している人を見ると腹が立ってしまい、そんな自分が嫌になってしまう」といった苛立ち。「後期になって対面授業再開したときに適応できるかどうか不安」「学業が人より遅れていないか確認できないのでひたすら不安」「受講中の集中力が持続しない」「十分な勉強ができていのかどうか心配」が示すような学業への心配。新入生特有の不安も見受けられる。「本当に大学でやっていけるかどうか心配」「誰も知っている人がいなくて不安」「大学生になった実感がない」「大学で頑張ろうと思っていたことを諦めてしまっている」が示すように、大学生としてのアイデンティティを確立することが困難になっている。
- ②人間関係の困難さ： 二つに分けることができる。「人に会うことができずに寂しい」「家族以外の人と話さないのになんとなくストレスがたまっている」が示すように、希薄さからくるもの。もう一つには、「人と話す機会が減って、話すとき緊張するようになっている」「後期になって対面授業再開したときに適応できるかどうか不安」が示すように、現在中断している直接的コミュニケーションへの自信のなさである。
- ③体調不良： 「身体を動かす機会が減ったので太った」「誰にも会わないからと過食してしまった」といった体重増加に関わること、「メディア授業による眼精疲労・肩こり」「疲れやすくなった」「だるい」といった体調不良などである。
- ④閉塞感： これまでできていたことができないうちの自由さである。「うかつに外出してはいけないような気がして・・・」「外出しにくい雰囲気」といった、漠然としたものから、「美容室に気軽に行けない」「趣味の旅行に行けない」といった具体的なものが含まれる。
- ⑤運動不足： 「運動不足」「登校や買い物に行く機会が減り運動不足になっている」という内容であり、③体調不良や⑥生活リズム不調につながるものと思われる。
- ⑥生活リズム不調： 「生活リズムが崩れた」「遅刻の心配が無いので徹夜で勉強してしまいリズムが狂ってしまっている」
- ⑦経済的不安： 「バイトが減って収入が減った」

(3) 考察

行動制限・自粛による影響は、マイナスのみならずプラスもみとめられたが、「プラスの影響のみ」という回答は1割に満たなかった。そして、プラスの影響を受けた119名の対象者が記述した内容が154個、マイナスの影響を受けた130名の対象者が記述した内容が251個であったことを考えると、①プラスよりもマイナスの影響が大きい、②マイナスの影響は種類・個人差が大きいという2つの可能性があるかと推測できる。

学生が得たプラスの影響は「増えた時間への意味づけ」が重要であることを示している。通学や私用による外出機会減少により、自室で過ごす時間が急増した。じっくりと自分自身や周囲の重要な他者について考えたり、リラックスしたり、好きなことや趣味を謳歌し、本業である学業にも工夫を凝らして取り組む。一年生はこの時間を活用し、新生活の準備を行う。二年生以上はこれまでの身体の疲れを癒やしているのだろう。ここには、増えた自分の時間を上手に活用できているという実感がある。また、「人間関係への意味づけ」の相違にもあらためて気づかされる。直接的なコミュニケーションを取らずにすむことで穏やかに過ごす学生もいれば、直接的コミュニケーションが制限されたことでそのありがたみを再確認する機会を得た学生もいる。

行動制限・自粛によるプラスの影響は、「生活を自分のペースで組み立てることができる、周囲からの影響力を最小限に抑えて生活できること」と要約できるだろう。マイナスの影響はその裏面である。「増えた時間」がもたらす不安感や生活リズムの崩れ、さらには体調不良。時間は増えたものの活動できない閉塞感や苛立ちがある。また、縮小したあるいは間接的になってしまった「人間関係」は寂しさや孤独をもたらす。

特に新入生の場合、「本当に大学でやっていけるかどうか心配」という記述に代表される特徴的な不安がある。吉良（2001）³⁾が指摘するように、高校生から大学生へと移行するこの時期、新入生は生活上の大きな変化を経験しながら、新しい生活を創り上げていく。たとえば新しい生活環境に慣れていくことや、修学環境に慣れていくこと、そして新たな人間関係を築いていくことである。自分が入学した大学の空気に直接触れる機会がきわめて少ない中で、大学生としての自分を確立していくことは容易ではないだろう。「大学生になった実感が無い」の一言に尽きる。

経済的不安や、メディア授業による課題の多さ、今後の進路への不安は、前述した文部科学省（2021）¹⁾や全国大学生生活協同組合連合会（2021）²⁾の示すところでもある。

以上は、受講生を対象とした報告である。次には、保健管理センターへの来談者の相談内容からCOVID-19の影響を考えていく。

【報告2】

従来、弘前保健管理センターではカウンセラーによる相談は面談で行い、補助的な手段として、メール、電話、手紙、オンラインを用いて行ってきた。COVID-19感染拡大に際しても、感染予防対策に努めながら、通常通りに行うことができている。2020年度開始直後は、開講時期の遅れもあり来談者数が減少したが、その後は例年と変わらない利用状況となっている。2021年度秋、全国の感染者数激増に際し、オンライン面談も可能であることを伝えながら行っているが、ほとんどの来談者が対面での相談を希望している。

相談に訪れた学生がコロナ禍からどのような影響を受けたと感じているかを、2020年度と2021年度の相談内容から検討する。

（1）方法

1) 手続き

2020年度および2021年度12月までの来談者のうち、コロナ禍の影響を受けていると推測される来談者を抽出する。抽出の基準は、来談経緯や、自分自身の状態を説明する際にコロナ禍の影響を言語化していることとした。本人自ら「コロナで」「コロナだから」と言語化していることである。コロナ禍の影響が推測されたとしても来談者自身が言語化しない場合には、対象者には含めないこととした。

2) 対象者

	来談者数	対象者数
2020年度	110	27 (25%)
2121年度 (12月まで)	139	18 (13%)
	249	45 (18%)

2020年度および2021年度の来談者のうち、相談内容にコロナ禍の影響を言語化していた来談者を対象とする(表4参照)。2020年度の来談者110名は、2021年度(12月まで)の来談者139名であった。そのうち、対象者は2020年度が27名、2021年度が18名であった。合計45名(男性17名、女性28名)の相談内容に含まれていたコロナ禍に関連づけられたテーマを抽出した。

(2) 結果

62のテーマが抽出され、「脆弱性」「生活リズム不調、方向性不透明」「勉強しにくさ」「コロナ不安」「寂しさ」「人間関係からの解放」「経済的困窮」の8つに大別できた(表5参照)。なお、対象者数は45名であるが、複数テーマに言及する対象者もいるため、対象者数とテーマの出現頻度数は一致しない。

テーマ	出現頻度
脆弱性	17
生活リズム不調	11
方向性不透明	10
勉強しにくさ	10
コロナ不安	8
寂しさ	4
人間関係からの開放	3
経済的困窮	2
計	62

- ①脆弱性： 以前から抱えていた問題が大きくなっている場合である。たとえば、発達障害、あるいはその傾向が認められていた、摂食障害、気分障害、そして家族との不和などである。コロナ禍がきっかけとなり、脆弱性が表面化したり、再燃・悪化することである。
- ②生活リズム不調： これまで創ってきた生活リズムが通用しなくなる危機である。メディア授業と対面授業の切り替え、あるいはメディア授業の長期化は、生活リズムの組み立て直しを要求する。起床し、朝食をとり、身支度を整え、戸締まり、ゴミを出しながら大学へ行く。大学の食堂で昼食をとり、図書館で勉強し、食材を購入して帰宅、といったような一連の生活の流れが容易に崩れて、修正が困難になってしまう。特に①に示した発達障害傾向をもつ対象者には、悩みの種である。さらには、これまで登校することでコントロールしてきたオンオフの切り替えが困難になり、起きている時間中、勉強・ゲーム・スマホ操作を止めることができないといったことがある。
- ③方向性不透明： 予定されていたイベント(留学、就職試験など)が中止・延期されたり、実習の見通しが不透明になる、研究計画の変更を余儀なくされるなどである。これにより大学入学の目的や進むべき進路を見失い、困惑している。また、実習のスケジュール変更は内容の変更を伴う場合がある。不確定な状況により、自身の計画を繰り返し変更せざるを得ない。このような事態は、焦燥感や無力感をもたらすであろう。
- ④勉強しにくさ： メディア授業で課される課題の多さに苦労したり、理解度や到達度を周囲と直感的に比較できないことへの不安である。対面授業の場合には、授業終了後に教員に質問したり、周囲の人に気軽に尋ねたり、あるいは周囲のやりとりから、自分のわからないところを補足できた。また、自分の頑張りの経過を教員に見てもらえないことへの不満、結果だけで判断されることへの不安を抱えている。エネルギー源となっていた「頑張っている仲間の姿」「誰かが私を見てくれる」が欠落することで勉強や研究への自信のなさや恐怖が高まっている。この勉強しにくさから、欠席が増えたり、課題提出に失敗してしまう。

- ⑤コロナ不安： 感染予防のストレス、自分自身や大事な他者が感染してしまうのではないかとという怖れ、そして予防ワクチンへの考え方を表明することへの怖れである。コロナに関連するニュースや情報からうまく心の距離を取ることができない、自分の所属する小集団や友人とのコロナへの態度に大きな隔たりを感じ、つきあいにくなっている。
- ⑥人間関係からの解放： メディア授業期間内は教室へ入らなくてすむため、対人不安を抱えている対象者には、思いがけない休息の時となっていた。8つのテーマのうち、唯一のプラスイメージで語られたテーマである。
- ⑦寂しさ： まんえん防止等重点措置の発出、3密回避により、外出の機会・交流の機会は激減している。友人との接触も減り、県境を越えて家族に会いに行くこともはばかられる。
- ⑧経済的困窮： 親からの仕送りが減ったり、アルバイト収入が減ったり、生活が苦しい、そして気持ちも苦しくなっているという内容である。

(3) 考察

対象者がコロナ禍と関連づけて言語化したテーマの中で、最も多かったものは「脆弱性」であった。「脆弱性」は、症状の悪化あるいは表面化、家族間の軋轢増大あるいは表面化を導く。学生生活では欠席や課題未提出といった形で表面化する。日常生活ではひきこもりや音信不通といった形で表面化する。対人関係では攻撃や関係回避といった形で表面化する。

同様に「生活リズム不調」や「勉強しにくさ」も欠席や課題未提出を招き、「脆弱性」を表面化させる場合がある。「方向性不透明」は欠席や課題未提出に留まらず、休学や退学へとつながっていく。また、「コロナ不安」は対人関係を変化させる契機になっている。コロナへの感受性には大きな個人差がある。この感受性の個人差により、対人関係に齟齬が生じることもある。それが一時的ですむ場合もあれば、決定的なものになってしまう場合もある。大学生にとって友人や仲間との関係は自分の存在意義を確認する上で重要なものであることを考えると、「コロナ不安」の影響は看過できない。

テーマの中で「人間関係からの解放」のみ、プラスの意味づけで語られた。しかし、「人間関係からの解放」に言及したいずれの対象者も、同時に別の文脈では、コロナ不安が契機となりもともとあった症状が悪化したり、生活リズムが崩れたり、課題提出に支障を来していることにも言及していた。

コロナ禍は、来談者たちが持っていた脆弱性を浮き彫りにした。コロナ禍が続けば、マイナスの影響はさらに大学生活のいくつもの面に及んでいくことが推測される。

【まとめ】

COVID-19 感染拡大防止のための行動制限・自粛は、自室で一人で過ごす時間の増大（対象者の言葉を借り“自分の時間”と記す）をもたらした。受講生を対象とした調査による報告1から、この“自分の時間”の特徴が、使い方を自分で決定できる点、直接的コミュニケーションが推奨されない点にあることがわかる。また、コロナ禍で生活を自分のペースで組み立てることに挑戦している大学生がいることが確認できた一方で、プラスの影響のみという回答が1割未満であったことを考えると、ほとんどの大学生が様々な形でマイナスの影響を受け続けていると言える。

“自分の時間”はいろいろなものを生み出す。不安感や生活リズムの崩れ、体調不良。時間は増えたものの活動できない閉塞感や苛立ち、人に会えない寂しさがある。これらの点は、報告1の受講生にも、報告2の来談者にも共通する点であろう。マイナスの影響は一時的なものに留まらない。長引くコロナ禍によるマイナスの影響は、来談者の悩みとして現れていると考える。

メディア授業になってから、人間関係のあり方には変化が生じている。受講者にも来談者にも「人間

関係から解放され安心」という認識がみられた。高野（2020）⁴⁾が指摘するように「他者との関わりが求められないことで楽になったと言う学生もいるが、孤立することで、いざというときに支援が届きにくくなるという点では心配」である。メールでの呼びかけに徐々に返信しなくなっている学生の孤立状況を心配した教職員からの相談を受ける機会もある。また、試行錯誤を重ねようやく継続来談できるようになった学生が、メディア授業になり来談しなくなり、欠席も増え、体調も崩してしまったという事例も経験している。

コロナ禍では、大学生を取り巻く多くの事柄が変化し続けている。梶谷（2021）⁵⁾が述べるように、「コロナ前にはなかった、取りこぼし感や一種のトラウマがメンタルヘルス不調の背景にある可能性を念頭に」置く必要性を述べている。一時期、大学生など若者たちが COVID-19 感染拡大の源であるかのように扱われたことがあった。真面目に生活している大学生ほど、このような扱いに納得いかない気持ちを抱えているようであった。相談場面でも、直接「コロナだから」と言語化されなくても、問題や不安の背景にコロナ禍の存在を感じ取ることが多い。

その一方で、失ったもの、得るはずだったものを取り戻すことのみにとらわれてはいけないとも考える。キャンパスにいる大学生にとっては、現在の状況こそが大学生活のすべてである。孤独や寂しい時間の中で自分自身を見つめ直す、メディア授業の特長を生かし計画的に学習を進める、オンラインで友人と交流する、以前よりもオンラインで家族と交流する機会が増やす等々、望まない状況の中で工夫を重ねる学生の姿に勇気づけられることが数多くあった。

コロナ禍の影響に注意を向けながら、そして新しい生活を創り出そうとしている力を発見しながら支援方法を模索し続けていきたい。

引用文献

- 1) 文部科学省（2021）新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査。
https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf（2022年2月18日閲覧）
- 2) 全国大学生活協同組合連合会（2021）届けよう！コロナ禍の大学生活アンケート。
https://www.univcoop.or.jp/covid19/enquete/pdf/covid_enq_2108_02.pdf（2022年2月18日閲覧）
- 3) 吉良安之（2001）入学期の特徴。In：鶴田和美編：学生のための心理相談。培風館：12-23.
- 4) 高野明（2020）ウィズコロナ時代の学生相談を考える。臨床心理学 119：637-639.
- 5) 梶谷康介（2021）ポストコロナにおける大学生のメンタルヘルス。子育て支援と心理臨床27：77-81.

付記 本稿には開示すべき COI はありません。

Ⅱ 令和2年度保健管理業務報告

令和2年度

1. 保健管理センター年間行事

月	行 事	内 容	対 象	備 考
4月	職員特殊健康診断	末梢血, 問診票	電離放射線取扱者(看護部異動による新規対象者)	
	幼児・児童・生徒定期健康診断	※後記載 尿検査(4月・5月) 各科検診(10月・11月)	附属学校園(幼・小・中・特別支援)	
	学生特別定期健康診断	問診票(放射線業務従事者)	保健学科(放射線技術科学3年・4年)	第1回
5月	職員特殊健康診断	各取扱物に対する受検項目(外注) 産業医診察(6月)	有機溶剤・特化物等業務従事者 電離放射線業務従事者	第1回 第1回
	職員特定業務従事者健康診断	問診票, 体重, 血圧, 検尿, 視力・聴力(問診)	深夜業務従事者(看護師, 週1回以上の宿直該当者), 病原体・ホルムアルデヒド・エチレンオキシドを扱う業務従事者	第1回
	学生定期健康診断(6月・7月・9月・11月)	1. 問診票, 胸部レントゲン, 身長・体重(自己申告) 2. 問診票, 胸部レントゲン, 尿検査, 身長・体重(自己申告) 3. 問診票, 身長・体重(自己申告)	1. 新入生(学部生・編入学生・大学院生) 2. 医学部(在学生・大学院生在学生) 3. 上記1.2以外の学生・大学院生	
	(5月～10月)			
6月	学生特別定期健康診断	1. 末梢血, 問診票 2. HBs抗原・抗体, HCV抗体(6月～8月)	1. RI実験室立入学生 2. 保健学科 看護学2年, 放射線技術科学2年 検査技術科学2年, 理学療法学2年, 作業療法学2年	第1回
	児童・生徒心電図検査(6月・9月)	心電図検査	附属学校(小1年, 中1年), 特別支援学校(小1年, 中1年, 高等部1年)	
7月	学生検尿再検	早朝尿又は夕食後尿	定期健康診断検尿要再検者(二次検尿)	
	職員心電図検査と血液検査	心電図, AST, ALT, γ -GT, 中性脂肪, HDLコレステロール, LDLコレステロール, クレアチニン, 貧血検査, 血糖, 腹囲測定	35歳と40歳以上の職員 (文京町地区7月・8月, 本町地区9月・10月・1月に実施)	
	職員VDT検診	問診票(情報機器作業従事者)	VDT作業従事者	

月	行 事	内 容	対 象	備 考
10月	学生特別定期健康診断	1. 末梢血, 問診票 2. 問診票	1. 保健学科 (放射線技術科学2年) 2. 保健学科 (放射線技術科学3年, 4年)	第2回
	職員ストレスチェック	「職業性ストレス簡易調査票」 (57項目)	全職員	
11月	職員特殊健康診断	各取扱物に対する受検項目 (外注) 産業医診察	有機溶剤・特化物等業務従事者 電離放射線業務従事者	第2回 第2回
	職員一般定期健康診断 (兼特定業務従事者健康 診断)	胸部レントゲン, 検尿, 血圧, 身長・体重・BMI, 視力, 聴力, 問診票	全職員 (文京町地区11月, 本町地区12月に実施)	第2回
	学生特別定期健康診断	1. 末梢血, 問診票	RI 実験室立入学生	第2回
	総合型選抜入試	救護班		
12月	季節性インフルエンザワクチン接種	ワクチン接種依頼に応じて実施	学務部職員 (入試担当) 希望者	
1月	大学入学共通テスト	救護班		
	学生特別定期健康診断	HBs 抗原・抗体, HCV 抗体, 末梢血	医学科4年, HB ワクチンを接種した医学 科5・6年	
2月	(入試) 前期日程	救護班		
3月	(入試) 後期日程	救護班		
	職員B型肝炎検査	HBs 抗原・抗体	HB ワクチン接種者, 来年度 HB ワクチン希望者	
	学生定期健康診断	検尿, 血圧, 身長・体重測定, 胸部レントゲン	保健学科4年 (理学・作業療法学) (4月から実習で受診できないため)	

健康診断証明書
健康相談
応急処置

— 随時

※ 幼児・児童・生徒定期健康診断検査項目

1. 身長及び体重
2. 栄養状態
3. 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無
並びに四肢の状態
4. 視力及び聴力
5. 目の疾病及び異常の有無
6. 耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無
7. 歯及び口腔の疾病及び異常の有無
8. 結核の有無
9. 心臓の疾病及び異常の有無
10. 尿
11. その他の疾病及び異常の有無

備考

左記の検査項目のうち
幼稚園は8を除く項目を実施。
10は附属学校園すべて保健管理センターで実施。
8は小・中学校は問診票にて実施し, 特別支援学校
高等部は胸部レントゲン実施。
小・中学校の2, 3, 5, 6, 9, 11は附属病院等にて実施。

2. 保健管理センター業務対象学生及び職員数

大学

令和2年5月1日現在

学部	性別	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
人文社会科学部	男女	145	117	126	174			562
		137	173	142	146			598
教育学部	男女	71	70	65	96			302
		103	108	107	107			425
医学科	男女	66	75	81	72	95	68	457
		49	65	71	63	51	42	341
保健学科 (心理支援科学科)	男女	72	64	64	72			272
		142	141	139	145			567
理工学部	男女	322	289	305	338			1,254
		46	65	62	56			229
農学生命科学部	男女	127	134	135	147			543
		97	90	86	93			366
計	男女	803	749	776	899	95	68	3,390
		574	642	607	610	51	42	2,526
合計		1,377	1,391	1,383	1,509	146	110	5,916

大学院

学部	性別	1年次	2年次	3年次	4年次	計
人文社会科学研究科	男女	7	15			22
		4	11			15
人文社会科学研究科 (秋季入学)	男女	0				0
		0				0
教育学研究科	男女	8	20			28
		4	20			24
医学研究科	男女	34	36	33	94	197
		13	18	9	31	71
医学研究科 (秋季入学)	男女	0				0
		0				0
保健学研究科 前期課程	男女	19	28			47
		11	12			23
保健学研究科 後期課程	男女	10	10	15		35
		3	4	11		18
理工学研究科 前期課程	男女	95	96			191
		12	15			27
理工学研究科 前期課程 (秋季入学)	男女	0				0
		0				0
理工学研究科 後期課程	男女	3	8	12		23
		4	3	5		12
理工学研究科 後期課程 (秋季入学)	男女	0				0
		0				0
農学生命科学研究科	男女	30	39			69
		14	19			33
農学生命科学研究科 (秋季入学)	男女	0				0
		0				0
地域社会研究科	男女	4	2	17		23
		2	4	9		15
地域共創科学研究科	男女	13				13
		12				12
計	男女	223	254	77	94	648
		79	106	34	31	250
合計		302	360	111	125	898

職員

令和2年10月1日現在

部局	性別	職員数	35歳と40歳以上	40歳以上
事務局 ※	男女	204	148	143
		168	114	111
人文社会科学部	男女	59	50	49
		23	16	15
教育学部	男女	126	101	100
		98	79	76
医学研究科	男女	177	135	129
		142	106	99
保健学研究科	男女	64	43	42
		47	34	33
医学部附属病院	男女	385	144	133
		891	448	422
理工学研究科	男女	109	100	98
		22	14	14
農学生命科学部	男女	91	81	80
		34	22	21
計	男女	1,215	802	774
		1,425	833	791
合計		2,640	1,635	1,565

※学内共同施設等を含む

教育学部附属学校

学校	性別	児童・生徒数
小学校	男女	265
		284
中学校	男女	238
		253
特別支援学校	男女	40
		15
幼稚園	男女	30
		24
計	男女	573
		576
合計		1,149

3. 学生の健康診断

(1) 定期健康診断受検率及び結果

① 大学生（新入生・編入学生）

学 部	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目	
				胸 部 写 真	
				受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)
人 文 社 会 科 学 部	1	男	145	117 (80.7)	1 (0.9)
		女	137	129 (94.2)	1 (0.8)
教 育 学 部	1	男	71	68 (95.8)	
		女	103	96 (93.2)	
医 学 部 (医 学 科)	1	男	66	65 (98.5)	
		女	49	48 (98.0)	
医 学 部 (保 健 学 科)	1	男	68	68 (100.0)	
		女	136	136 (100.0)	
医 学 部 (心 理 支 援 学 科)	1	男	4	4 (100.0)	
		女	6	6 (100.0)	
理 工 学 部	1	男	322	280 (87.0)	1 (0.4)
		女	46	40 (87.0)	
農 学 生 命 科 学 部	1	男	127	93 (73.2)	1 (1.1)
		女	97	89 (91.8)	
医 学 科 (編 入 学 生)	2	男	13	13 (100.0)	
		女	7	7 (100.0)	
保 健 学 科 (編 入 学 生)	3	男	0		
		女	1	1 (100.0)	
理 工 学 部 (編 入 学 生)	3	男	3	3 (100.0)	
		女	0		
農 学 生 命 科 学 部 (編 入 学 生)	3	男	2	2 (100.0)	
		女	2	2 (100.0)	
小 計		男	821	713 (86.8)	3 (0.4)
		女	584	554 (94.9)	1 (0.2)
合 計			1,405	1,267 (90.2)	4 (0.3)

注) 空欄は該当者なし

②大学生（医学部在学生）

学 部	学 性	年 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目					
				胸 部 写 真		尿 検 査 ※			
				受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)	受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)		
							蛋 白	糖	潜 血
医 学 科	2	男	62	55 (88.7)		55 (88.7)			1(1.8)
		女	58	54 (93.1)		54 (93.1)			
	3	男	81	72 (88.9)		72 (88.9)			1(1.4)
		女	71	70 (98.6)		69 (97.2)		1(1.4)	
	4	男	72	66 (91.7)		66 (91.7)			1(1.5)
		女	63	59 (93.7)		59 (93.7)	1(1.7)		
	5	男	95	62 (65.3)		62 (65.3)		1(1.6)	
女		51	38 (74.5)		39 (76.5)				
6	男	68	61 (89.7)	1 (1.6)	61 (89.7)				
	女	42	41 (97.6)		41 (97.6)				
計	男	378	316 (83.6)	1 (0.3)	316 (83.6)	0(0.0)	1(0.3)	3(0.9)	
	女	285	262 (91.9)	0 (0.0)	262 (91.9)	1(0.4)	1(0.4)	0(0.0)	
保 健 学 科	2	男	64	63 (98.4)		63 (98.4)	2(3.2)		1(1.6)
		女	141	141 (100.0)		141 (100.0)			3(2.1)
	3	男	64	62 (96.9)		62 (96.9)			
		女	138	136 (98.6)		136 (98.6)	4(2.9)		
	4	男	72	66 (91.7)		66 (91.7)			
女		145	138 (95.2)		138 (95.2)	1(0.7)			
計	男	200	191 (95.5)	0 (0.0)	191 (95.5)	2(1.0)	0(0.0)	1(0.5)	
	女	424	415 (97.9)	0 (0.0)	415 (97.9)	5(1.2)	0(0.0)	3(0.7)	
小 計	男	578	507 (87.7)	1 (0.2)	507 (87.7)	2(0.4)	1(0.2)	4(0.8)	
	女	709	677 (95.5)	0 (0.0)	677 (95.5)	6(0.9)	1(0.1)	3(0.4)	
合 計		1,287	1,184 (92.0)	1 (0.1)	1,184 (92.0)	8(0.7)	2(0.2)	7(0.6)	

※ 一次検診 注)空欄は該当者なし

③大学生（医学部以外在学生）

学 部	学 年	性 別	受 検 对 象 者 数	檢 査 項 目	
				問 診 票	
				受 検 者 数	(%)
人文社会科学部	2	男	117	26	(22.2)
		女	173	83	(48.0)
	3	男	126	29	(23.0)
		女	142	59	(41.5)
	4	男	174	61	(35.1)
		女	146	93	(63.7)
計	男	417	116	(27.8)	
女	461	235	(51.0)		
教 育 学 部	2	男	70	8	(11.4)
		女	108	43	(39.8)
	3	男	65	10	(15.4)
		女	107	17	(15.9)
	4	男	96	13	(13.5)
		女	107	32	(29.9)
計	男	231	31	(13.4)	
女	322	92	(28.6)		
理 工 学 部	2	男	289	75	(26.0)
		女	65	23	(35.4)
	3	男	305	64	(21.0)
		女	62	18	(29.0)
	4	男	338	109	(32.2)
		女	56	35	(62.5)
計	男	932	248	(26.6)	
女	183	76	(41.5)		
農学生命科学部	2	男	134	27	(20.1)
		女	90	34	(37.8)
	3	男	135	39	(28.9)
		女	86	35	(40.7)
	4	男	147	48	(32.7)
		女	93	47	(50.5)
計	男	416	114	(27.4)	
女	269	116	(43.1)		
小 計	男	1,996	509	(25.5)	
	女	1,235	519	(42.0)	
合 計			3,231	1,028	(31.8)

④大学院（新入生）・・・胸部X-P対象者

大 学 院	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目	
				胸 部 写 真	
				受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)
人 文 社 会 科 学 研 究 科	1	男	7	4 (57.1)	
		女	4	4 (100.0)	
教 育 学 研 究 科	1	男	8	3 (37.5)	
		女	4	2 (50.0)	
医 学 研 究 科	1	男	34	2 (5.9)	
		女	13	0 (0.0)	
保 健 学 研 究 科	1	男	29	10 (34.5)	
		女	14	2 (14.3)	
理 工 学 研 究 科	1	男	98	68 (69.4)	
		女	16	11 (68.8)	
農 学 生 命 科 学 研 究 科	1	男	30	21 (70.0)	
		女	14	10 (71.4)	
地 域 社 会 研 究 科	1	男	4	0 (0.0)	
		女	2	1 (50.0)	
地 域 共 創 科 学 研 究 科	1	男	13	8 (61.5)	
		女	12	11 (91.7)	
小 計		男	223	116 (52.0)	0 (0.0)
		女	79	41 (51.9)	0 (0.0)
合 計			302	157 (52.0)	0 (0.0)

注) 空欄は該当者なし

⑤大学院（医学系在学生）・・・胸部X-P対象者

大 学 院	学 性	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目						
			胸 部 写 真			尿 検 査 ※			
			受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)	受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			
						蛋 白	糖	潜 血	
年 別									
医 学 研 究 科	2	男	36	4 (11.1)		3 (8.3)			
		女	18	4 (22.2)		4 (22.2)			
	3	男	33	4 (12.1)		4 (12.1)		1 (25.0)	
		女	9	0 (0.0)		0 (0.0)			
	4	男	94	2 (2.1)		2 (2.1)			
		女	31	1 (3.2)		1 (3.2)			
	計	男	197	10 (5.1)	0 (0.0)	9 (4.6)	0 (0.0)	1 (11.1)	0 (0.0)
		女	71	5 (7.0)	0 (0.0)	5 (7.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
保 健 学 研 究 科	2	男	38	7 (18.4)		7 (18.4)			
		女	16	4 (25.0)		4 (25.0)			
	3 (後期)	男	15	0 (0.0)		0 (0.0)			
		女	11	0 (0.0)		0 (0.0)			
	計	男	82	7 (8.5)	0 (0.0)	7 (8.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
女	41	4 (9.8)	0 (0.0)	4 (9.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)		
小 計	男	279	17 (6.1)	0 (0.0)	16 (5.7)	0 (0.0)	1 (6.3)	0 (0.0)	
	女	112	9 (8.0)	0 (0.0)	9 (8.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
合 計		391	26 (6.6)	0 (0.0)	25 (6.4)	0 (0.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

⑥大学院（医学系以外在学生）

大 学 院	学 年	性 別	受 検 对 象 者 数	檢 査 項 目	
				問 診 票	
				受 検 者 数	(%)
人 文 社 会 科 学 研 究 科	2	男	15	2	(13.3)
		女	11	3	(27.3)
教 育 学 研 究 科	2	男	20	3	(15.0)
		女	20	5	(25.0)
理 工 学 研 究 科	2	男	104	53	(51.0)
		女	18	15	(83.3)
	3(後期)	男	12	5	(41.7)
		女	5	3	(60.0)
	計	男	116	58	(50.0)
女	23	18	(78.3)		
農 学 生 命 科 学 研 究 科	2	男	39	22	(56.4)
		女	19	10	(52.6)
地 域 社 会 研 究 科	2	男	2	0	(0.0)
		女	4	1	(25.0)
	3	男	17	1	(5.9)
		女	9	1	(11.1)
	計	男	19	1	(5.3)
女	13	2	(15.4)		
小 計		男	209	86	(41.1)
		女	86	38	(44.2)
合 計			295	124	(42.0)

(4) 学生特別定期健康診断（対象学生は病院実習とR I 実験室に立ち入る学生）

① 対象学生・学部及び検査項目・実施時期・回数

対象学部・学年		検査項目	実施時期	回数		
医学部	医学科	4年	HBs抗原・抗体, HCV抗体, 末梢血	1月	1回	
	保健学科	看護学	2年	HBs抗原・抗体, HCV抗体	6～8月	1回
		検査技術科学 理学療法学 作業療法学	2年	HBs抗原・抗体, HCV抗体	6月	1回
		放射線技術科学	2年	HBs抗原・抗体, HCV抗体	8月	1回
		”	2年	末梢血・問診票	10～11月	1回
		”	3年	問診票	4月・10月	2回
	”	4年	問診票	4月・10月	2回	
医学部 理工学部 農学生命科学部 北日本新エネルギー研究所	RI取扱および放射線実習に関わる学部学生, 院生		末梢血・問診票	6月・11月	2回	

② 学生特別定期健康診断受検率及び結果

病院実習

医学部 医学科

学 科	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	肝 機 能			末 梢 血							
					HBs 抗原	HBs 抗体	HCV 抗体	白 血 球 数 (/ μ l)			血 色 素 量 (g / dl)				
					陽性 者数	陽性 者数	陽性 者数	4000 未満	4000 } 10000 未満	10000 以上	女		男		
											10未満	10以上	11未満	11以上	
医学科	4	男女	114 21	114 (100.0) 21 (100.0)		112 19		5 2	109 19			1	20		114
合 計			135	135 (100.0)	0	131	0	7	128	0	1	20	0	114	

医学部 保健学科

専 攻	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	肝 機 能		
					HBs 抗原	HBs 抗体	HCV 抗体
					陽性 者数	陽性 者数	陽性 者数
看護学	2	男女	6 74	6 (100.0) 74 (100.0)		6 72	
放射線 技術学	2	男女	27 15	27 (100.0) 15 (100.0)		25 14	
検 査 技術学	2	男女	10 31	10 (100.0) 31 (100.0)		9 29	
理 学 療法学	2	男女	13 6	13 (100.0) 6 (100.0)		12 6	
作 業 療法学	2	男女	7 15	7 (100.0) 15 (100.0)		7 15	
小 計		男女	63 141	63 (100.0) 141 (100.0)	0 0	59 136	0 0
合 計			204	204 (100.0)	0	195	0

大学 R I 実験室立入実習生 末梢血・自覚症状および皮膚科（問診票）の検査

学部学科等		性別	第 1 回 目											
			受 検 対 象 者 数	末 梢 血								自覚症状他 (問診票)		
				末 梢 血 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	白血球数(10 ³ /μl)			血色素量(g/dl)				受 検 者 数 (%)	
						4.00 未満	4.00 ∩ 10.00 未満	10.00 以上	女		男			
10 未 満	10 以 上	11 未 満	11 以 上	受 検 者 数										
医 学 部	保健学科放射線 技術学科 3 年	男 女	22 18	0 0										22 (100.0) 17 (94.4)
	保健学科放射線 技術学科 4 年	男 女	27 15	0 0										27 (100.0) 15 (100.0)
保健学研究科	学生及び大学院	男 女	2 1	0 1	1 (100.0)		1			1				2 (100.0) 1 (100.0)
理 工 学 部	学生及び大学院	男	26	3	3 (100.0)		3					3		26 (100.0)
		女	7	1	1 (100.0)		1			1				7 (100.0)
農 学 生 命 科 学 部	学生及び大学院	男	5	0										5 (100.0)
		女	1	0										1 (100.0)
小 計		男	82	3	3 (100.0)	0	3	0	0	0	0	3		82 (100.0)
		女	42	2	2 (100.0)	0	2	0	0	2	0	0		41 (97.6)
合 計			124	5	5 (100.0)	0	5	0	0	2	0	3		123 (99.2)

学部学科等		性別	第 2 回 目											
			受 検 対 象 者 数	末 梢 血								自覚症状他 (問診票)		
				末 梢 血 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	白血球数(10 ³ /μl)			血色素量(g/dl)				受 検 者 数 (%)	
						4.00 未満	4.00 ∩ 10.00 未満	10.00 以上	女		男			
10 未 満	10 以 上	11 未 満	11 以 上	受 検 者 数										
医 学 部	保健学科放射線 技術学科 2 年	男 女	27 15	27 15	27 (100) 15 (100.0)	1 1	26 13				15	27		27 (100.0) 15 (100.0)
	保健学科放射線 技術学科 3 年	男 女	22 18	0 0										22 (100.0) 17 (94.4)
	保健学科放射線 技術学科 4 年	男 女	27 15	0 0										27 (100.0) 15 (100.0)
保健学研究科	学生及び大学院	男 女	2 1	0 0										2 (100.0) 1 (100.0)
理 工 学 部	学生及び大学院	男	22	8	8 (100.0)		8					8		22 (100.0)
		女	3	0										3 (100.0)
農 学 生 命 科 学 部	学生及び大学院	男	4	0										4 (100.0)
		女	1	1	1 (100.0)		1			1				1 (100.0)
小 計		男	104	35	35 (100.0)	1	34	0	0	0	0	35		104 (100.0)
		女	53	16	16 (100.0)	1	14	1	0	16	0	0		52 (98.1)
合 計			157	51	51 (100.0)	2	48	1	0	16	0	35		156 (99.4)

4. 職員の健康診断

(1) 定期健康診断受検率及び結果

性 別	事務局等		人文社会科学部		教育学部		医学研究科		保健学研究科		附属病院		理工学研究科		農学生命科学部		小 計		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
受検対象者	204	168	59	23	126	98	177	142	64	47	385	891	109	22	91	34	1,215	1,425	2,640		
受検者総数(%)	200(98.0)	168(100.0)	54(91.5)	22(95.7)	115(91.3)	94(95.9)	177(100.0)	142(100.0)	64(100.0)	47(100.0)	384(99.7)	891(100.0)	105(96.3)	21(95.5)	89(97.8)	34(100.0)	1,188(97.8)	1,419(99.6)	2,607(98.8)		
内 人間ドック・雇入時健診・ 健診証明書提出者数	22	14	6	0	21	17	19	6	8	4	18	13	19	1	8	3	121	58	179		
訳 受検者(上記以外)	178	154	48	22	94	77	158	136	56	43	366	878	86	20	81	31	1,067	1,361	2,428		
未 検 者	4(2.0)	0(0.0)	5(8.5)	1(4.3)	11(8.7)	4(4.1)	0	0	0	0	1(2.1)	0	4(3.7)	1(4.5)	2(2.2)	0	27(2.2)	6(0.4)	33(1.3)		
保健管理センターでの受検者 (外注・人間ドック・雇入時健診 ・健診証明書提出者以外)	166	146	48	22	64	46	158	135	56	43	366	878	86	20	66	23	1,010	1,313	2,323		
検 査 項 目	低 体 重 (%)	4(2.4)	21(14.4)	1(2.1)	2(9.1)	2(3.1)	8(17.4)	4(2.5)	14(10.4)	5(11.6)	8(2.2)	78(8.9)	2(2.3)	3(15.0)	1(1.5)	3(13.0)	22(2.2)	134(10.2)	156(6.7)		
	普通体重(%)	87(52.4)	99(67.8)	33(68.8)	14(63.6)	40(62.5)	34(73.9)	93(58.9)	84(62.2)	36(64.3)	29(67.4)	226(61.7)	637(72.6)	53(61.6)	12(60.0)	39(59.1)	16(69.6)	607(60.1)	925(70.4)	1,532(65.9)	
	肥満1度(%)	55(33.1)	22(15.1)	12(25.0)	6(27.3)	18(28.1)	3(6.5)	49(31.0)	25(18.5)	19(33.9)	6(14.0)	101(27.6)	116(13.2)	23(26.7)	5(25.0)	17(25.8)	3(13.0)	294(29.1)	186(14.2)	480(19.1)	
	肥満2度(%)	13(7.8)	4(2.7)	2(4.2)		3(4.7)	2(4.3)	8(5.1)	8(5.9)	1(1.8)	1(2.3)	21(5.7)	35(4.0)	7(8.1)		6(9.1)		61(6.0)	50(3.8)	111(4.8)	
肥満3度(%)	5(3.0)				1(1.6)	1(2.2)	4(2.5)	1(0.7)	1(1.8)	1(2.3)	9(2.5)	6(0.7)	1(1.2)		3(4.5)	1(4.3)	23(2.3)	10(0.8)	33(1.4)		
	2(1.2)								3(2.2)	1(2.3)	1(0.3)	2(0.2)			3(0.3)		3(0.3)	2(0.2)	5(0.2)		
判定なし(妊娠中)																				8(0.6)	8(0.3)
胸部 写真									2(1.5)	7(12.5)	1(0.3)	16(1.8)					8(0.8)	18(1.4)	26(1.1)		
お よ び	要精検者数(%)								1(0.7)	1(1.8)	1(0.3)	11(1.3)	1(1.2)		1(1.5)		9(0.9)	13(1.0)	22(0.9)		
	蛋白(%)	3(1.8)	1(0.7)	1(2.1)		1(1.6)		4(2.5)	3(2.2)	1(1.8)	2(0.5)	7(0.8)	5(5.8)		1(1.5)		16(1.6)	12(0.9)	28(1.2)		
	糖(%)	3(1.8)						1(0.6)	3(2.2)	1(1.8)	2(4.7)	18(2.1)		1(5.0)			7(0.7)	32(2.4)	39(1.7)		
結 果	潜血(%)	3(1.8)	5(3.4)			2(4.3)		1(0.6)	3(2.2)	1(1.8)	2(4.7)										
	高血圧者数(%)	76(45.8)	28(19.2)	23(47.9)	2(9.1)	33(51.6)	6(13.0)	55(34.8)	26(19.3)	21(37.5)	9(20.9)	93(25.4)	103(11.7)	42(48.8)	34(51.5)	6(26.1)	377(37.3)	183(13.9)	560(24.1)		
要指 導者 数	要精検者数(%)	11(6.6)	4(2.7)	10(20.8)		4(6.3)	1(4.4)	3(1.9)	7(5.2)	2(3.6)		7(1.9)	7(0.8)	5(5.8)	7(10.6)	2(8.7)	49(4.9)	22(1.7)	71(3.1)		
	要指導者数(%)	60(36.1)	54(37.0)	17(35.4)	5(22.7)	16(25.0)	11(23.9)	53(33.5)	50(37.0)	12(21.4)	20(46.5)	103(28.1)	273(31.1)	18(20.9)	24(36.4)	7(30.4)	303(30.0)	432(32.9)	735(31.6)		
聴力 測定	21(12.7)	7(4.8)	9(18.8)	1(4.5)	7(10.9)	1(2.2)	2(1.3)	4(3.0)	2(3.6)	3(7.0)		12(3.3)	2(2.3)		6(9.1)		61(6.0)	45(3.4)	106(4.6)		

注) 空欄は該当者なし

その他、週30時間未満勤務者32名受検

(2) 生活習慣病健診

心電図検査

(35歳と40歳以上)

部 局 名	性別	受検対象者数	受 検 数 (%)	有所見者数 (%)
事 務 局 等	男	148	118 (79.7)	24 (20.3)
	女	114	94 (82.5)	15 (16.0)
人文社会科学部	男	50	37 (74.0)	6 (16.2)
	女	16	12 (75.0)	1 (8.3)
教 育 学 部	男	101	54 (53.5)	11 (20.4)
	女	79	33 (41.8)	3 (9.1)
医 学 研 究 科	男	135	116 (85.9)	25 (21.6)
	女	106	99 (93.4)	8 (8.1)
保健学研究科	男	43	36 (83.7)	0 (0.0)
	女	34	31 (91.2)	3 (9.7)
医学部附属病院	男	144	137 (95.1)	19 (13.9)
	女	448	436 (97.3)	53 (12.2)
理工学研究科	男	100	74 (74.0)	11 (14.9)
	女	14	12 (85.7)	1 (8.3)
農学生命科学部	男	81	58 (71.6)	14 (24.1)
	女	22	15 (68.2)	1 (6.7)
小 計	男	802	630 (78.6)	110 (17.5)
	女	833	732 (87.9)	85 (11.6)
合 計		1,635	1,362 (83.3)	195 (14.3)
			1,593 (97.4)	人間ドック、外注、雇入時等含む

所見内訳 (のべ人数)

所 見	男	女
心筋障害	39	43
心室肥大	1	
WPW症候群	1	
QT延長		4
心室期外収縮	5	8
上室期外収縮	4	8
左脚前肢ブロック		1
完全右脚ブロック	16	6
不完全右脚ブロック	8	3
心室内伝導異常	11	1
I度房室ブロック	9	3
PR短縮	1	
2相性P波	1	
洞性徐脈	9	5
洞性頻脈	2	
QRS軸の異常	12	9
合 計	119	91

注) 空欄は該当者なし

(35歳, 40歳以上)

職員 肝機能・血中脂質・血糖・貧血検査

部署名	性別	受検対象者数	受検者数 (%)	肝機能判定					血中脂質判定					糖代謝判定					貧血判定					腎機能判定				
				AST, ALT, γ-GTP					TG, HDL-C, LDL-C					BS					RBC, Hb					e-GFR				
				※※	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D
事務局等※	男	148	118 (79.7)	71	35	11	1	92	11	7	5	3	85	19	2	12	96	16	6	0	103	14	0	1	0	1		
	女	114	94 (82.5)	65	26	3	0	74	11	5	1	3	88	2	0	4	78	10	5	1	85	9	0	0	0	0		
人文社会科学部	男	50	37 (74.0)	24	7	6	0	29	2	3	3	0	32	3	1	1	32	5	0	0	31	5	0	1	0	1		
	女	16	12 (75.0)	10	2	0	0	10	2	0	0	0	12	0	0	0	12	0	0	0	12	0	0	0	0	0		
教育学部	男	101	54 (53.5)	37	15	2	0	47	2	1	3	1	43	5	0	6	43	10	1	0	48	5	0	1	0	1		
	女	79	34 (43.0)	27	5	1	1	27	3	0	1	3	33	1	0	0	31	3	0	0	33	1	0	0	0	0		
医学研究科	男	135	116 (85.9)	72	29	14	1	94	4	9	5	4	98	7	2	9	102	13	1	0	97	17	0	2	0	2		
	女	106	99 (93.4)	66	27	6	0	80	8	4	3	4	95	3	0	1	83	12	4	0	94	4	1	0	0	0		
保健学研究科	男	43	36 (83.7)	24	6	6	0	29	2	4	1	0	27	7	0	2	24	6	6	0	30	5	1	0	0	0		
	女	34	31 (91.2)	17	12	1	1	22	5	2	1	1	28	1	1	1	24	7	0	0	28	3	0	0	0	0		
附属病院	男	144	137 (95.1)	83	34	20	0	98	10	15	9	5	113	17	1	6	121	15	1	0	129	8	0	0	0	0		
	女	448	439 (98.0)	294	113	29	3	321	52	28	21	17	403	27	1	8	363	49	26	1	422	15	0	2	0	2		
理工学部	男	100	74 (74.0)	45	18	9	2	59	3	5	6	1	62	9	0	3	62	11	1	0	68	5	1	0	0	0		
	女	14	12 (85.7)	10	2	0	0	8	4	0	0	0	12	0	0	0	11	1	0	0	11	1	0	0	0	0		
農学生命科学部	男	81	58 (71.6)	31	16	10	1	43	3	5	6	1	44	8	3	3	49	7	2	0	51	7	0	0	0	0		
	女	22	15 (68.2)	14	1	0	0	12	2	1	0	0	15	0	0	0	11	2	1	1	13	2	0	0	0	0		
小計	男	802	630 (78.6)	387	160	78	5	491	37	49	38	15	504	75	9	42	529	83	18	0	557	66	2	5	0	5		
	女	833	736 (88.4)	503	188	40	5	554	87	40	27	28	686	34	2	14	613	84	36	3	698	35	1	2	0	2		
合計		1,635	1,366 (83.5)	890	348	118	10	1,045	124	89	65	43	1,190	109	11	56	1,142	167	54	3	1,255	101	3	7	0	7		

外注, 人間ドック, 雇入時等含む

※: 附属研究所, 機構, 本部, 学内共同教育研究施設等を含む

※※: A; 正常, B; 要指導, C; 要再検, D; 要精査, E; 治療中

特定健診

(40歳以上75歳未満)

部局名	性別	受検対象者数	受検者数 (%)	腹囲 (%) 男性:85cm以上 女性:90cm以上	特定保健指導		
					積極的支援 レベルの対象者	動機付け支援 レベルの対象者	情報提供 レベルの対象者
事務局等	男	143	140 (97.9)	87 (62.1)	74	15	51
	女	111	111 (100.0)	13 (11.7)	10	12	89
人文社会科学部	男	49	38 (77.6)	18 (47.4)	11	5	22
	女	15	13 (86.7)	2 (15.4)	1	2	10
教育学部	男	100	92 (92.0)	51 (55.4)	29	13	50
	女	76	73 (96.1)	4 (5.5)	2	5	66
医学研究科	男	129	127 (98.4)	61 (48.0)	41	14	72
	女	99	98 (99.0)	14 (14.3)	7	17	74
保健学研究科	男	42	41 (97.6)	18 (43.9)	16	4	21
	女	33	33 (100.0)	8 (24.2)	3	4	26
医学部附属病院	男	133	132 (99.2)	80 (60.6)	58	19	55
	女	422	419 (99.3)	51 (12.2)	28	48	343
理工学研究科	男	98	89 (90.8)	57 (64.0)	26	19	44
	女	14	14 (100.0)	2 (14.3)	1	1	12
農学生命科学部	男	80	75 (93.8)	33 (44.0)	30	5	40
	女	21	21 (100.0)	4 (19.0)	4	0	17
小計	男	774	734 (94.8)	405 (55.2)	285	94	355
	女	791	782 (98.9)	98 (12.5)	56	89	637
合計		1,565	1,516 (96.9)	503 (33.2)	341	183	992

【血糖に関する項目】

空腹時血糖100mg/dl以上またはHbA1cが5.6% (NGSP値) 以上または薬物治療中

【脂質に関する項目】

中性脂肪150mg/dl以上またはHDL コレステロール40mg/dl未満または薬物治療中

【血圧に関する項目】

収縮期血圧130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上または薬物治療中

(3) 特別定期健康診断受検率及び結果

① 特定業務従事者(深夜業務従事者, 病原体・ホルムアルデヒド・エチレンオキシドを扱う業務従事者)

春 期

受検対象者	受検者数(%)	血圧測定		尿検査		視力(問診) 日常生活や就労 に支障あり	聴力(問診) 日常生活や就労 に支障あり	
		受検者数	要観察数(%)	受検者数	有所見者数			
					糖(%)	蛋白(%)		
529	529 (100.0)	529	42 (7.9)	529	10(1.9)	4(0.8)	1	2

② 情報機器(VDT)作業従事者

問診票提出者数	作業区分人数 (%)		問診票の眼疲労を 主とする項目の 点数が25点以上の方 (%)	
	A	414 (19.2)	13 (3.1)	
2,156	A以外	1,742 (80.8)	28 (1.6)	
合 計		2,156 (100.0)	41 (1.9)	

③ 特殊健康診断結果

春 期

		電離放射線	鉛	有機リン剤	有機溶剤	特 化 物
文京町地区	対象者数	25	0	4	67	45
	受検者数	25	0	4	67	45
本町地区	対象者数	538	1	0	92	51
	受検者数	538	1	0	92	51
金木農場	対象者数	0	0	7	8	0
	受検者数	0	0	7	8	0
藤崎農場	対象者数	0	0	6	3	0
	受検者数	0	0	6	3	0
地域戦略 研究所	対象者数	1	1	0	1	2
	受検者数	1	1	0	1	2
合 計	対象者数	564	2	17	171	98
	受検者数	564	2	17	171	98

秋 期

		電離放射線	鉛	有機リン剤	有機溶剤	特 化 物
文京町地区	対象者数	24	1	4	36	23
	受検者数	24	1	4	36	23
本町地区	対象者数	535	1	0	50	17
	受検者数	535	1	0	50	17
金木農場	対象者数	0	0	9	4	0
	受検者数	0	0	9	4	0
藤崎農場	対象者数	0	0	7	3	0
	受検者数	0	0	7	3	0
地域戦略 研究所	対象者数	3	1	0	2	1
	受検者数	3	1	0	2	1
合 計	対象者数	562	3	20	95	41
	受検者数	562	3	20	95	41

(4) ストレスチェック結果

部 局 名	対象職員	受検者	回答率	高ストレス者	高ストレス者率	産業医との面接実施		産業医との 面接実施率	
						面接指導	健康相談		
文京町地区	710	635	89.4 %	64	10.1 %	15	15	0	23.4 %
本町地区	1,773	1,587	89.5 %	142	8.9 %	14	12	2	9.9 %
学園町地区	88	70	79.5 %	7	10.0 %	1	1	0	14.3 %
その他地区	88	64	72.7 %	8	12.5 %	0			
合 計	2,659	2,356	88.6 %	221	9.4 %	30	28	2	13.6 %

5. 教育学部附属学校定期健康診断受検状況

尿検査

学 校 名	性 別	受検対象者数	受 検 者 数	(%)
小 学 校	男	265	265	(100.0)
	女	284	284	(100.0)
中 学 校	男	238	238	(100.0)
	女	253	251	(99.2)
特 別 支 援 学 校	男	40	40	(100.0)
	女	15	15	(100.0)
幼 稚 園	男	30	30	(100.0)
	女	24	24	(100.0)
小 計	男	573	573	(100.0)
	女	576	574	(99.7)
合 計		1,149	1,147	(99.8)

心電図検査

学 校 名	性 別	受検対象者数	受 検 者 数	(%)
小学校1年生	男	43	43	(100.0)
	女	45	45	(100.0)
中学校1年生	男	79	78	(98.7)
	女	85	85	(100.0)
特別支援学校1年生 (小学部・中学部・高等部)	男	11	11	(100.0)
	女	4	4	(100.0)
小 計	男	133	132	(99.2)
	女	134	134	(100.0)
合 計		267	266	(99.6)

6. 保健管理センター月別利用状況

学 生

月別	疾患別 性別	外 科 系							内 科 系						検 査 項 目				そ の 他		合 計	備 考		
		創傷	捻挫	打撲傷	刺傷	熱傷	皮膚疾患	眼科疾患	耳鼻咽喉疾患	その他	呼吸器疾患	消化器疾患	運動器疾患	泌尿器疾患	中毒	その他	血圧測定	心電図	尿検査	X線			健康診断証明書	定期心電図
4月	男女		1	1	1				1		1				1								4	外科系及び内科系の その他の欄は健康診 断相談の件数。 ※定期心電図対象は 大学学部新入生およ び附属学校1年生 小学校1年 男 43名 女 45名 中学校1年 男 78名 女 85名 特別支援学校 (小1・中1・高1) 男 11名 女 4名
5月	男女							1							1								1	
6月	男女	1		2											2					133		138		
7月	男女	1						1							5					165		172		
8月	男女	1			1										1					29		32		
9月	男女					1				1					4					47		53		
10月	男女								1						6					33		40		
11月	男女	1						2							7					17		27		
12月	男女	2		1					1						8					8		20		
1月	男女	1						1		1					8					8		20		
2月	男女			1					1	2					5					3		10		
3月	男女	1													4					12		13		
小計	男女	7	1	4	1	1	0	0	4	4	3	0	0	0	40	0	0	0	0	508	0	574		
合計	男女	2	1	1	0	2	0	0	3	1	2	1	0	0	31	0	0	0	0	486	0	530		
合計		9	2	5	1	3	1	0	7	5	5	1	0	0	71	0	0	0	0	994	0	1,104		

職 員

疾患別 性別 月別	外 科 系								内 科 系						検 査 項 目				そ の 他			合 計	備 考		
	創傷	捻挫	打撲傷	刺咬傷	熱傷	皮膚疾患	眼科疾患	耳鼻咽喉疾患	その他	呼吸器疾患	消化器疾患	運動器疾患	泌尿器疾患	中毒	その他	血圧測定	心電図	尿検査	X線	胃検診(ABC検診)	便中Hb			定期心電図	
4月	男																						0	外科系及び内科系のその他の欄は、健康相談の件数。	
5月	男							1	1		1												3		
6月	男																						0		
7月	男														2								334		336
7月	女	1												1									79		81
8月	男										1												2		3
8月	女			1							1												80		82
9月	男	1																					229		230
9月	女																						42		42
10月	男													1											1
10月	女	2									1												325		328
11月	男																								0
11月	女																								0
12月	男													1											1
12月	女																								0
1月	男													1											1
1月	女																						216		216
2月	男													1											1
2月	女																								0
3月	男													1										1	
3月	女																							0	
小計	男	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	565	577	
小計	女	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	742	749	
合計		4	0	1	0	0	0	0	1	1	0	4	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	1,307	1,326	

月別医療機関紹介状数（学生・職員）

月	男	女	総数
4月	0	0	0
5月	1	0	1
6月	1	4	5
7月	2	3	5
8月	0	1	1
9月	0	0	0
10月	2	0	2
11月	5	5	10
12月	2	5	7
1月	2	1	3
2月	1	2	3
3月	1	1	2
計	17	22	39

その他 英文の診断書 0

Ⅲ 令和2年度カウンセリング報告

令和2年度 カウンセラー業務等報告

令和2年度は、専任カウンセラー田名場美雪、高橋恵子、および非常勤カウンセラー浅原奈苗（学外）で保健管理センターの相談活動にあたった。文京キャンパスのほか、医学部本町キャンパスにおいて週一回4時間の相談活動を実施した。（附属学校園は休止中）

（文責：高橋恵子）

1. 月別利用状況（上段は事例数，下段は面接延べ数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
学部生	13 (27)	17 (30)	16 (78)	15 (79)	15 (57)	12 (49)	22 (68)	23 (65)	26 (71)	9 (36)	18 (53)	16 (56)	202 (669)
学部留年生	0 (0)	1 (1)	0 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (6)
大学院生	2 (3)	3 (5)	4 (8)	3 (9)	2 (4)	2 (16)	0 (4)	2 (7)	1 (9)	2 (6)	1 (9)	3 (10)	25 (90)
その他学生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
卒業生	0 (0)	1 (1)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (2)	1 (5)	2 (4)	3 (6)	10 (21)
家族等	2 (3)	1 (4)	3 (4)	1 (1)	0 (1)	1 (1)	0 (2)	3 (5)	2 (6)	1 (5)	1 (3)	2 (3)	17 (38)
教職員	0 (0)	4 (6)	4 (13)	6 (11)	2 (7)	8 (26)	4 (25)	5 (11)	1 (5)	0 (10)	12 (30)	8 (24)	54 (168)
教職員の家族等	1 (3)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (4)
附属学校園	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
新規事例数合計	18	27	28	26	19	23	26	34	31	14	34	32	312
面接延べ数合計	(36)	(47)	(109)	(101)	(69)	(92)	(99)	(89)	(93)	(63)	(99)	(99)	(996)

2. 主問題別事例数・面接延べ数

1) 学部生・留年学部生・大学院生・その他学生・卒業生からの相談内容

	精神疾患	性格・心理・行動	生活全般	進路	学業	対人関係	コンサルテーション	計
人社	5 (8)	17 (41)	10 (29)	1 (5)	7 (14)	1 (5)	2 (4)	43 (106)
教育	1 (22)	5 (28)	7 (10)	4 (11)	5 (21)	3 (18)	4 (3)	29 (113)
理工	6 (12)	21 (91)	9 (16)	7 (23)	9 (31)	3 (13)	0 (0)	55 (186)
医	2 (16)	11 (52)	1 (1)	4 (5)	15 (28)	5 (16)	5 (8)	43 (126)
農生	8 (10)	23 (76)	11 (21)	6 (31)	14 (63)	6 (37)	1 (1)	69 (248)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (7)	3 (7)
新規事例数合計	22	77	38	22	50	18	15	242
面接延べ数合計	(77)	(288)	(77)	(75)	(157)	(89)	(23)	(786)

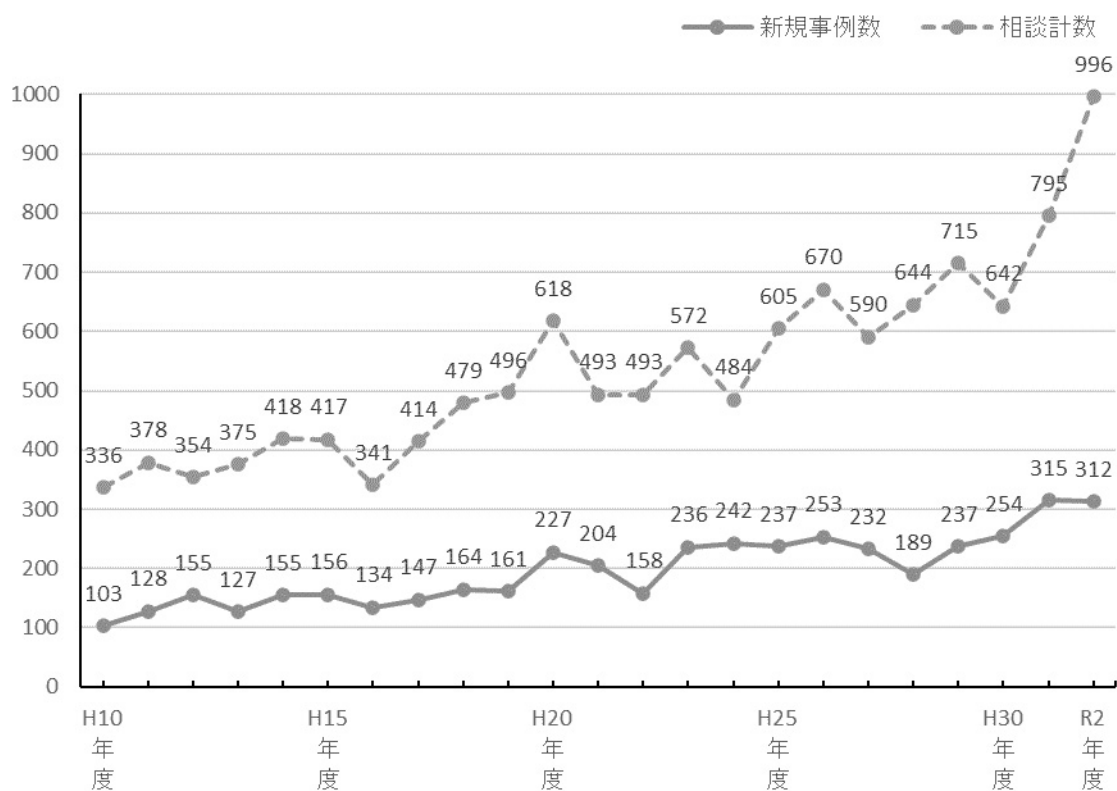
2) 教職員からの相談内容

相談内容	事例数	延べ件数
学生についてのコンサルテーション	44	(139)
教職員についてのコンサルテーション	5	(20)
心身の健康問題	4	(8)
対人関係	0	(0)
その他	1	(1)
合計	54	(168)

3. 相談形態ごとの相談件数

形態	面談	メール	電話	手紙	合計
相談件数	685	218	90	3	996

4. 平成10年度以降の利用状況推移



IV 保健管理センター概況

保健管理センター概況 (令和2年4月1日現在)

(1) 保健管理センター運営委員会

委員長	高梨信吾	(保健管理センター所長・教授)
副委員長	萱場広之	(医学部附属病院検査部長・教授)
委員	金目哲郎	(人文社会科学部准教授)
〃	田中完	(教育学部教授)
〃	加藤博之	(大学院医学研究科教授)
〃	大津美香	(保健学研究科准教授)
〃	前田拓人	(理工学研究科准教授)
〃	濱田茂樹	(農学生命科学部准教授)
〃	飯田有知子	(学務部学生課長)
〃	青木昌彦	(医学部附属病院放射線部長・教授)
〃	後藤真吾	(総務部人事課長)
〃	渡部明	(施設環境部環境安全課長)

(2) 職員

所長	高梨信吾	教授
カウンセラー	田名場美雪	准教授
カウンセラー	高橋恵子	講師
看護師	工藤誓子	
〃	嘉山恵子	
〃	澤田友美	
保健管理担当	成田知子	係長
事務補佐員	小山内英子	
〃	本田鏡子	
臨床検査技師	檜木英子	
検査助手	相馬亜妃子	
カウンセラー	浅原奈苗	学外カウンセラー

(3) 学校医

主任学校医	(泌尿器科)	大山力	医学部附属病院長
学校医	(内科)	珍田大輔	医学部附属病院准教授
〃	(内科)	富田泰史	大学院医学研究科教授
〃	(内科)	蔭山和則	大学院医学研究科准教授
〃	(内科)	高梨信吾	保健管理センター所長
〃	(神経精神科)	中村和彦	大学院医学研究科教授
〃	(眼科)	齋藤昌晃	医学部附属病院講師
〃	(耳鼻咽喉科)	佐々木亮	大学院医学研究科准教授
〃	(皮膚科)	松崎康司	医学部附属病院講師
〃	(整形外科)	和田簡一郎	医学部附属病院講師
〃	(外科)	脇屋太一	医学部附属病院講師
〃	(小児科)	相澤知美	医学部附属病院助教
歯科学校医		久保田耕世	医学部附属病院講師
学校薬剤師		磯木雄之輔	弘前市薬剤師会 (学外)

編集後記

コロナ禍におけるワクチン職域接種など、保健管理センターの業務は新しいチャレンジの連続でした。2021年度は新所長をお迎えしましたが、その歓迎ムードも覚めやらぬままいきなりトップスピードでのコロナ対応に追われる日々となりました。スタッフの連携もその分、深まった1年になったかと思えます。見通しの立たない状況下、学生や教職員の心身の健康も大変危ぶまれる一年となりました。カウンセリング件数も増加傾向にある中、一人ひとりの生きる力に支えられ模索を続ける日々です。悩みや躓きは壁ではなく明日への扉であると信じて。日頃の保健管理センターの活動のご支援に感謝致しますとともに、皆さまの安寧な日々をお祈り申し上げます。

(高橋 恵子)

弘前大学保健管理概要 42号

令和3年

発行編集者 弘前大学保健管理センター
弘前市文京町1
TEL (0172)39-3128
